

2018年 JAF 全日本ジムカーナ選手権

日時：2018年4月1日（日曜日） 快晴
会場：スポーツランド TAMADA（広島県）
出場クラス：SA3クラス 参加台数12台
車両名：タクマックス DL エキシージ



今回、広島県で開催された ”JAF 全日本ジムカーナ選手権 第2戦 広島マツダカップ in TAMADA” に当社で加工した部品を搭載し出場して頂きました。

前日から晴天が続き、会場では桜が満開に咲き、素晴らしい天気でした。

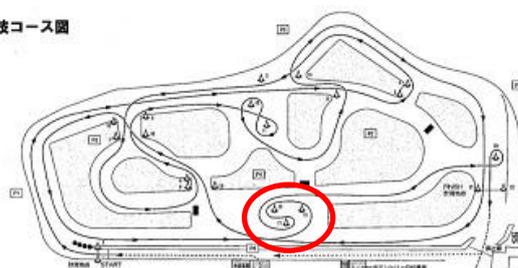
出場するクラスは“SA3”クラスと言い、改造範囲が広くSタイヤを使用できる後輪駆動のクラスで、当社が応援するマシンはロータス エキシージですが、他にはホンダ NSX・マツダ RX-7なども出場していました。

当社が応援するマシンの特徴は、イギリスのメーカー“ロータス”の車でありながら、エンジンは“トヨタ”であり、しかもそのエンジンは車両後部にあるミッドシップ方式という変わった車両だそうです。巷では“公道を走るレーシングカー”と呼ばれているそうです。



しかし、エキシージはジムカーナではリヤブレーキに問題があり改良が必要と言う事で協力させて頂きました。

競技コース図



今回の会場であるスポーツランド TAMADA はカートコースを使用したジムカーナコースで、路面はキレイだが、うねりが大きいコースだそうです。今回発表された決勝コース図の最大のポイントは、**赤マル**部分で、サイドブレーキを使用した“サイドターン”をするには、非常に難しいポイントと言う事で改良の効力を発揮するチャンスでもありました。

ドライバーにマシンの仕上がりを聞くと1本目は走り始めから問題なく、良い感じに走行しかし、ジムカーナ特有のルールである“パイロンタッチ”（走行中にコース内にあるパイロンに触れると走行タイムに5秒加算）をしてしまい、また**赤マル**部分で“サイドターン”に失敗してしまいタイムが伸びなかったとの事。



2本目は1本目での“パイロンタッチ”をした部分に気を付けて、**赤マル**部分の戦略を変更し2本目走行“パイロンタッチ”もなし！**赤マル**部分も戦略を変更して見事成功！キレイにサイドターンが決まり、ほぼノーミスでゴールしました。しかし、タイムがあまり伸びず結果は10位でした。

走行中に大したミスはありませんでしたが、やはり全日本選手権になると、ドライビングテクニックの差のみでなく、マシンの性能差も大きく、なかなか上位入賞は難しいと感じました。

また、この大会には広島工業高校自動車部の学生たちが去年から大会の運営側のお手伝いで参加しており、彼らの普段の活動は、自動車整備技術の向上を目指し活動している工業クラブであり、日常点検のみでなく、エンジンのオーバーホールや、車両の分解・組立をしているクラブだそうです。



将来の夢は、自動車の開発や整備士になることが夢で、エキシージのエンジンを見たり運転席に座ってみたりと興味津々でした。若者の車離れと言われていますが、車が好きな若者のはまだまだいることを実感し、こういう若者が車を楽しめる環境ものづくりを進めていかなければならないと感じました。